

大学01 第 8号
平成28年4月1日

大月市立各小中学校 校長 殿

大月市教育委員会
(公印省略)

平成28年度 大月市学校教育の指針について

「新やまなしの教育振興プラン（平成26～30年度）」では、「未来を拓く『やまなし』人づくり」を基本理念として掲げ、「夢と希望に向かって自ら学び、考え、行動する『たくましい力』を育てる」「他者を思いやり、社会の絆を深める『しなやかな心』を育む」とする二つの基本目標を達成するための取組を推進していくこととしています。

本市教育委員会においては、この振興プランに基づいて策定された平成28年度山梨県学校教育指導重点と、大月市として平成27年6月に策定した「大月市の教育の大綱(大月市第2期教育振興基本計画)」を踏まえ、未来を担う子どもたちの「生きる力」の育成に向けた教育活動として下記に掲げる事項を今年度の教育指針としました。

つきましては、校長のリーダーシップとマネジメントの下、児童・生徒一人ひとりにきめ細かな指導を実践され、学校教育の更なる充実・発展にご尽力をお願いします。

記

1 ふるさと教育の推進

- ・ 豊かな自然環境の中で、自然体験や勤労体験を位置づけた教育課程の編成と実践に努め、感性豊かな「たくましい児童生徒」の育成に努める。
- ・ 自分たちが暮らす地域の歴史や伝統、文化に触れる学習機会を設定し、地域の人たちとの交流を活発にすることにより、郷土を大切に作る心の育成に努める。
- ・ 地域社会と連携したボランティア活動に取り組み、この体験を通して広い視野と心豊かな感性を持つ児童生徒の育成に努める。

2 「生きる力」を育む適切な教育課程の編成と実施

- ・ 中学校区単位で小中連携に取り組む場を確実に設け、児童生徒の学力実態等に基づき、教育課程及び指導内容や指導方法について研究協議を実施し、学力向上に向けた組織的な授業改善により、確かな学力の定着を図る。
- ・ 中学校にあっては、キャリア教育の「ねらい」や「身に付けさせたい力」を踏まえた上で、体験活動における指導を充実させ、3年間を見通して、系統的に事前・事後指導を行い、様々な気づきや成長を促進する。

3 確かな学力を育む指導と評価

- ・ 教職員が学校全体の課題を共有化し、課題改善に向けた授業研究等、具体的な取組を推進し、その効果の検証と改善に努めるとともに、教員一人ひとりの指導力及び学校の教育力向上を図る。
- ・ 家庭と連携した取組を進め、学習習慣の確立に努めるとともに、学ぶことの楽しさや意義を実感できるようにするため、児童生徒が確実に目標をつかみ興味を持って自ら課題解決に取り組むよう、計画的、効果的な家庭学習の推進に努める。

4 豊かな人間性を育む心の育成の推進

- ・ 的確な児童生徒理解をもとに、児童生徒が自己存在感や充実感を感じ、安心できる居場所づくりや、望ましい集団活動の中で進んで他者と関わり、児童生徒主体の絆づくりができる場や機会を設けるとともに、いじめや不登校、暴力行為等のない楽しい学校生活の実現を図る。
- ・ 児童生徒、学校及び地域の実態を踏まえ、学校として育てようとする児童生徒の姿を明らかにし、道徳教育の重点目標や指導を設定した全体計画を作成する。
- ・ 児童生徒の自己有用感を高め、地域の一員としての自覚を育てるために、学校、家庭、地域社会と相互に協力・連携しながら、学校や地域の実態と特性を生かした取組を通して、生命尊重や思いやりなどの自他を敬愛する心の育成に努める。

5 健康・安全に関する資質や能力の育成

- ・ 自校の現状を適切に把握し、学校全体で課題を共有し、小学校にあっては運動の日常化を、中学校にあっては体力の向上を図るため、運動時間の確保に努める。
- ・ 学校教育活動を通じて、健康教育の着実な推進を図るとともに、健康・安全（生活・交通・災害）及び食に関する教育の充実に努める。

6 家庭や地域に開かれた信頼される学校づくりの推進

- ・ 学校評価における自己評価は、成果と課題及び課題に対する改善方策を示し、PTA総会、学校便り、学校のホームページ等で家庭や地域に積極的に公表するとともに、PDCAサイクルに基づき、適切な評価と改善を図る。
- ・ 保護者や地域住民が学校における教育活動に組織的・継続的に参加できる仕組みをつくとともに、参加する機会を増やし、開かれた学校づくりを推進する。